



新人助産師

院内助産は、助産師外来を通じて、妊婦さんと助産師とが強い信頼関係を築きながら妊婦さん自身が自分と向き合い、目標に向かって頑張っておられる姿が印象に残っています。お産は特別なものだからこそ、時間をかけて関わることができる院内助産は素敵だと感じています。

「女性がもつ産む力」と「赤ちゃんの生まれてほしいという生命力」

を最大限に発揮できるお産をしてほしいという助産師の思いから2011年10月に始まった院内助産。2015年4月からは初産婦の院内助産もスタートし、今までに127名の方が院内助産で出産されました。院内助産開設から4年を経て感じる事、お産に対する助産師の思いを集めました！

3年目助産師

私は助産師学生の時に、スタッフのお産に対する熱い思いに魅かれ、就職を決めました。今では、院内助産のお産のお手伝いをさせていただく機会も増え、その中で産婦さんが「自分で産む」という強い覚悟をもっていることに感動し、担当する助産師を信頼してお産にのぞんでいる姿が印象に残っています。助産師外来を通じて妊娠中から赤ちゃんの成長を共に喜び、時間をかけて信頼関係を築いていくことの大切さを改めて感じました。そして、今「院内助産を担当できる助産師になる」ということが私の目標のひとつとなり、励みになっています。

“助産師の思い”

様々な世代の声を集めました！

院内助産担当助産師

私も院内助産で出産しました。院内助産で出産するということは、妊娠中の自分の気持ちや身体と向き合うことだと感じています。自分自身のしたいお産のイメージを具体的にし、それを実現するためにはどうすればよいのか。私がお産の時に、これだけはしようと決めていたことは、**生まれようとする赤ちゃんの声に心を傾けること**。痛みや恐怖心に支配されるだけのお産ではなく、赤ちゃんの生命力を感じながらずっと赤ちゃんにエールを送っていました。安心して任せられる助産師に囲まれ、自分のスタイルを尊重してもらい、夫と赤ちゃんのひとつになれた出産をすることができたと感じています。あの日の光景、想いは今でも私を支え、助産師として母として生きる源になっています。

